

井内先生へ（贈る言葉）

須野原 智恵子

井内先生の退官につき原稿依頼の電話を先輩からいただいた時は、これで大学との距離が一層遠くなるという思いで一杯になりました。卒論担当教官である事はもちろんとして、特に印象に残る教官であったからです。その中で忘れられない事をいくつか述べて、先生への贈る言葉にさせていただきます。

その1——入学後、初の授業で「皆さんと同じ一年生です。」？と思っていると、先生は私たちの入学の半年前に任官され、初めて新入生を迎えたとの事でした。大学の教官はイメージからして博学博識で気難しそうだと思っていたのが、意外と身近な存在に思え、専門が自分に一番興味のあった“都市地理学”という事もあって、この時もすでに卒論担当をしていただこうと勝手に決めさせていただきました。

その2——2年の仙台巡検。やっと興味ある分野について考察できることがとてもうれしかった為か今でもよく覚えており、仙台関係のニュース、新聞記事等が出ると、つい気になって真剣になってしまいます。仙台市近郊の農家をグループで調査した時には、「この前、変な男の学生が来たが、あの人も仲間ですか？」と聞かれ、言葉に詰ってしまいました。“変な男の学生”とは事前に挨拶まわりをしてくださった先生本人を指してのことなので……。しかし、私たちは、この事を決して先生には言わずに黙って卒業してしまいました。

その3——授業。忘れられない授業は、ECと

都市地理学です。今のヨーロッパはECを中心に動いていますが、外国地誌の時間に先生は実に丁寧にわかりやすく解説してくださいました。1951年の欧州石炭鉄鋼共同体条約を源にして、EEC⇒ECの流れとその目的については今でもはっきり覚えており、都市地理学も含めて新聞・TVで関連ニュースが出ると、先生の事を思い出します。

その4——卒論、仙台巡検で調査のプロセスを見てきたはずでしたが、結局それがあまり活かされないばかりか、ともかく漠としてまとまりのない内容、こじつけの結論で終るという有様で、改めて不勉強で非力の自分を発見したというのが唯一の収穫で、先生にご迷惑をかけてしまった事が心残りでした。その罪滅ぼしのように、突然、転勤先から現地報告を試みたり、小学生の子供と夏休みに巡検の真似事をしたレポートを送らせていただいています。

卒業して、まさか我が子と共に巡検の真似事をするとは思ってもいませんでしたが、かつての仙台での経験はこのような所で活用させていただいています。折にふれて、思いがけない所で先生の授業の事を思い出したりしますが、その先生が退官されてしまうのは月日の流れですが、また一步大学から遠のいてしまうようです。卒業しても、先生の授業は、きっと私達の中で活かされていることと思います。先生、これからもお元気で、また是非印象に残るお話を、お聞かせくださいますように。

（28回生）